

TAKE
FREE

クラシック音楽メディアのポータルサイト

レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE

FREE MAGAZINE
202607

特別企画「ブラームス4つの交響曲」展開中♪



Willem Mengelberg
(1871 ~ 1951)

CONTENTS

- 02 【新譜月評】2026年6月の特選タイトル一覧+批評抜粋
- 06 【記事一覧】2026年5月21日~6月21日更新の記事一覧
- 07 【厳選!】編集部おすすめコンテンツ

★レコード芸術 ONLINE はこちらから→



制作: 「レコード芸術 ONLINE」編集部

レコード芸術 ONLINE、フリーマガジン第 11 号です。 掲載記事 3,000 本*突破！ ぜひ有料会員登録をご検討ください♪

音楽之友社が運営するポータルサイト『レコード芸術 ONLINE』編集部フリーマガジンです。今号には、2026 年 6 月の [新譜月評] 特選タイトル一覧 + 批評抜粋、直近 1 ヶ月の記事一覧、編集部のおすすめコンテンツを収録しました。

本サイトは月額 1,100 円 (税込)。無料コンテンツも続々。クラシック音楽メディアの芸術史を未来へつなげる批評の場、そして現在を記録・発信する情報の場として、日々更新を続けています。

* 2024 年 10 月からの累計。新譜月評のディスクページを含む。2026 年 6 月 22 日現在

「レコード芸術 ONLINE」編集部

契約から最初 2 ヶ月間が 100% OFF となる「年間契約プラン」を開始しました。
詳細は右側の QR コードから♪

レコード芸術 ONLINE はこちらから♪

←の有料会員お申込みページはこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/>



<https://recogei.ontomo-mag.com/order/>

【レコード芸術 ONLINE 新譜月評】 2026 年 6 月の特選タイトル一覧 + 批評抜粋

特選 = ダブル評を行ったもので、2 名とも「推薦」評価 / 筆者は敬称略、五十音順 / 特記のないものは通常 CD です



それぞれの批評全文 + 他の音源については、
有料会員限定コンテンツとして
「レコード芸術 ONLINE」上でお読みいただけます♪

https://recogei.ontomo-mag.com/disc_review/backnumber/202606/

●オーケストラ曲



ショスタコーヴィチ：交響曲第 2 番《十月革命に捧げる》、同第 5 番
ヨーン・ストルゴーズ指揮 BBC フィルハーモニック、バーミンガム市交響楽団合唱団
[シャンドス (D) NYCX10587] SACD ハイブリッド

♪ 交響曲第 2 番は [...] モダニズムの書法によって、大規模で精緻な対位法を繰り広げた意欲的な作品である。これと、スターリンの批判を受けて作風を一気に大衆寄りに転換した交響曲第 5 番を 1 枚に収めるというカップリングがまず面白い…… (相場)

♪ 好評進行中のストルゴーズ指揮 BBC フィルによるショスタコーヴィチ・シリーズ第 6 集。一言でいえば、ひじょうに幅広くとられたダイナミックレンジのなかで純音楽的に展開するショスタコーヴィチ、となろうか…… (船木)



シューベルト：交響曲第 5 番、同第 6 番
パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー・ブレーメン
[RCA (D) SIC10490] SACD ハイブリッド

♪ いつもどおり、音楽的なこだわりのポイントはあちこちに垣間見える。とはいえ、第 5 番における 4 小節の序奏、これまでのパーヴォであればそこに過剰なまでの情報を詰めようとしただろうが、この演奏は良い意味で肩の力が抜けている…… (広瀬)

♪ パーヴォとドイツ・カンマーといえば、ティンパニを強打し、勢いよく進む、あの痛快なベートーヴェンの交響曲全集を思い出す人は少なくないだろう。前作の《未完成》と《悲劇的》は、ある程度はその延長線上にある [...] 今回は…… (増田)



R. シュトラウス：アルプス交響曲，メタモルフォーゼン，《町人貴族》組曲
 ルドルフ・ケンペ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
 [ミュンヘン・フィル (D) WPCS28518 ~ 9 (2枚組)] SACD ハイブリッド

♪ケンペの《アルプス交響曲》には、同じ1971年に録られたシュターツカペレ・ドレスデンとの有名なセッション録音がある（ほかに1966年収録のロイヤル・フィルとの音盤も）。それとの比較が、まずは興味をそそるところだろう……（船木）
 ♪読者諸兄もご存知のように、この名コンビは1968年に協奏曲も含めて7曲ほど、当時のCBSにセッション録音を残しているが、今回ライブ録音が、それもSACDハイブリッド盤で登場したことを喜ぶたい。録音会場は、いずれもヘルクレス・ザール……（満津岡）



モーツァルト／ピリオド楽器によるクラリネット作品全集 Vol.2
 ニコラ・バルディルー (cl・バセット cl) ヴィレンズ指揮ケルン・アカデミー，他
 [アルファ (D) NYCX10588]

♪アルバムの後半に置かれた、幻の楽器バセット・クラリネットを用いた《クラリネット協奏曲》に聴かれる、軽快さと翳りの絶え間ない交替の妙にも増して、アルバムの前半に収録されている《協奏交響曲》には度肝を抜かれる……（小宮）
 ♪《協奏交響曲》は […] 複数の独奏楽器を組み合わせるにあたって（簡素とはいえ）対位法的書法を試みているのも、後年の作品への音楽的萌芽ともとらえられ、それらをよりハッキリと聴かせようとするクラリネットのバルディルー、そして指揮のヴィレンズ……（広瀬）



マーラー：交響曲第7番《夜の歌》
 ジャンアンドレア・ノセダ指揮ワシントン・ナショナル交響楽団
 [National Symphony Orchestra (D) NSO0022 (海外盤)] SACD ハイブリッド

♪ノセダとワシントン・ナショナル交響楽団による、マーラーの初ディスク […] 第7番はその構造の複雑さがしばしば議論になるが、本演奏ではその複雑さを無駄に感じさせない。それどころか、この作品が古典的な交響曲の伝統の中にあることを感じさせてくれる……（石原勇）
 ♪おそらく、ジャンアンドレア・ノセダによる本作へのアプローチは、現代的な流行とは一線を画していると言わねばならない […] だが、中間の3つの楽章を聴けば、ノセダが […] 抑制的なアプローチを採った理由も、おのずと腑に落ちる……（広瀬）

●室内楽／器楽曲



J.S. バッハ／ヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロのためのソナタ集
 酒井淳 (gamb) クリストフ・ルセ (cemb) [アパルテ (D) AP394F]

♪酒井淳とクリストフ・ルセは長年共演者として活動を共にしてきた […] 同盤はそんな二人がたっぷり四つに組んで録音したバッハのガンバ・ソナタ他。通奏低音ではなく、チェンバロのパートがしっかりと書き込まれたオブリガート声部だけに……（那須田）
 ♪J.S. バッハの3曲のヴィオラ・ダ・ガンバとオブリガート・チェンバロのためのソナタの録音について私は […] しばしば両楽器の発音原理と性格の違いが、バッハが構築した緻密な声部の対話の描出を難しくしているように感じる […] しかし酒井淳とルセは……（矢澤）




ショーソン：ヴァイオリン、ピアノと弦楽四重奏のための《コンセル》，詩曲
 ルノー・カピュソン (vn) ニコラ・アンゲリッシュ (p) エベヌ四重奏団，他
 [エラート (D) WPCS13890] SACD ハイブリッド

♪ルノー・カピュソンがエルネスト・ショーソンの代表作2曲に取り組んだ本盤は、この作曲家の録音史において、今後も参照され続けるであろう名盤である […] カピュソンの演奏にはホールでも何度か接したことがあったが、本盤のショーソンは……（八木）
 ♪19世紀の大ヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイが初演したショーソンの名作2曲をカップリングしたCDは意外に少なく、国内盤では初めてと思う。なぜこのような書き出しになったかという、ルノー・カピュソンのヴァイオリンの音色がきわめて豊かで……（芳岡）



シューベルト／ピアノ三重奏曲集
 トリオ・モロー [エラート (D) 2173294026 (2枚組)]

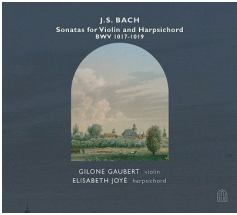
♪第1番の出だしは仲のよい友人同士 (or 兄弟) が久闊 (きゅうかつ) を叙して盃をかち合わせ談論風発をたのしむ意気軒昂とした闊達さではじまる。大胆で細心、重厚で軽妙ながらそのなかにわずかながら憂いの翳がよぎる。その違和は……（喜多尾）
 ♪兄弟や姉妹によるアンサンブルは昔からひととき高密度の高い名演が存在するが、この3兄弟によるシューベルトの室内楽も実に一体性があり、何よりもアンサンブルとして全てが協働した求心的演奏で曲の様々な側面が浮かび上がってくる……（草野）



バッハ・イン・デュオ～リコーダーとチェンバロのためのアレンジ集
パトリック・デネッカー (bfl) ギー・ペンソン (cemb) [initié (イニシエ) (D) ITE001]

♪バロック時代にはどんな曲であれ、その時々事情で様々な編曲して楽しむことは当たり前。問題はどのように編曲されて、演奏されるかに掛かっている […] デネッカーは、チェンバロのレパートリーに他の楽器を加えるいわゆる合奏化に光を当て…… (那須田)


♪バッハ作品への新たな視点を提示する一枚がリリースされた […] 演奏は端正で、あまり遊びは感じられないが、闊達なリズムとしなやかなトラヴェルソの響き、二人の安定したテクニックによって不自然さは全く感じられず、まるで…… (西村)



J.S. バッハ：ヴァイオリン・ソナタ第4番～第6番
ジローヌ・ゴベール (vn) エリザベート・ジョワイエ (cemb)
[initié (イニシエ) (D) ITE003]

♪この演奏は昨今よくある、感情的・直情的に自己の表現意欲をギラギラと全面に出す承認欲求の強いタイプとは違うようだ […] もちろん二人の目指す音楽の方向はピッタリと一致している。よって評価の分かれ目はこのあたりだろう…… (石原立)


♪作品・演奏・録音の三拍子が揃った名盤 […] 第4番ハ短調の有名な第1楽章ラルゴから、二つの楽器がそれぞれの輝きと落ち着きを併せ持つ音色美、合奏が繊りな響きの美しさ、そして川の流れのように自然に流れる音楽に魅了される…… (芳岡)



ベートーヴェン／ピアノ・トリオ全集 Vol.3
葵トリオ [秋元孝介 (p) 小川響子 (vn) 伊東裕 (vc)] [ライヴノーツ (D) WWCC8048]

♪演奏を評するのに「音楽的」などという言葉を使うことが間々ある […] この葵トリオの演奏を聴いている間、しきりにアタマに浮かんだのが、この「音楽的」という言葉 […] 最終的にはそこに集約されるのではないかという意味で意識したのである…… (石原立)

♪冒頭のピアノ三重奏曲第3番では、それぞれのパートの技術の高さは当然のこととして、3人の音色の実に澄んだ美しさにまずは耳を奪われてしまう。そしてこのベートーヴェンの初期作品で、しかもハ短調という音楽的特徴に対して…… (草野)




ミラージュ
マルク・アンドレ (cb) 他 [ワーナー・クラシックス (D) 2685449499]

♪コントラバス奏者として注目の新人 […] この楽器は一般的にオーケストラではいわゆる縁の下の力持ちのような存在だが、このマルク・アンドレの手にかかると実に多彩な音楽的表現が生み出されている。冒頭のドヴォルザーク《我が母の教え給いし歌》から…… (草野)

♪コントラバスのためのオリジナル曲や、ディープな愛好家を喜ばせる演目は外された本盤 […] ジャンルを越えた選曲に違和感を覚えさせないのは、先述のように伸びやかで自然な歌心と、そこに艶っぽさも薫らせる美音にあると思う…… (山野)


●鍵盤曲



2025年第19回シヨパン国際ピアノ・コンクール・ライヴ
リュウ・ティエンヤオ (p) [NIFC (D) SNIFCCD804 (2枚組)]

♪コンクールの最終結果発表の日に17歳を迎えたという若さは、「未熟さ」とはまったく結びつかない。とはいえ背伸びをするようなパフォーマンスでもなく、彼女の演奏は自身の身体性と感性に終始まっすぐであり続け、誠実に貫かれている…… (飯田)

♪本盤はコンクールの第1次予選からファイナルまでの演奏から抜粋された演奏を楽しむことができる […] 収録曲のいずれも彼女の魅力を見事に伝えてくれるものだが、注目すべきは第3次予選で演奏されたピアノ・ソナタ第2番《葬送》ではないだろうか…… (長井)





シヨパン 忘れられた響きの発見
山名敏之 (p) [ALM (D) ALM9289]

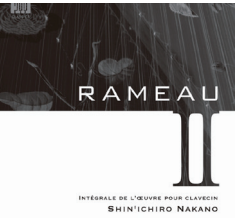
♪本盤は、シヨパンが存命中に出版された作品を調査し、全体の57%にペダル指示が存在しないという事実に着目したことから生まれた。その前提に立つことで導かれたのは、「ピアノで歌う」シヨパンならではのカンタービレ奏法、そして微細なニュアンスの揺らぎ…… (長井)

♪このディスクを聴きながら私が「なるほど」と思ったのは、ペダルを使わずに演奏することで、左手の和声がかれまで認識していたものと全く別物となって出現してくることだ。例えば《前奏曲》の第2番では後半部分の1箇所のみ1小節程度だけペダルを踏む指示がある…… (鷲野)



●オペラ／声楽曲

	<p>J.S. バッハ：ヨハネ受難曲（1749 年稿） ラファエル・ピション指揮ピグマリオン，他 [ハルモニア・ムンディ (D) HMM902774F (2 枚組)]</p> <p>♪きわめて劇的な、いや、演劇的な《ヨハネ受難曲》である。開始曲の、怒りと嘆きが噴き上るような烈しい管弦楽からして心臓を驚づかみにされるが、演じ手は、なんとといっても合唱だ。とくに第2部、いよいよイエスへの裁きが始まるあたりから…… (船木)</p> <p>♪レコード・アカデミー賞を受賞したピションたちの『マタイ受難曲』[Harmonia Mundi] […]それから4年、待望の『ヨハネ受難曲』の登場である。もしかしたら彼らの演奏スタイルは《ヨハネ》にはさらにふさわしいかもしれない…… (矢澤)</p>
	<p>女王たち～ソプラノ独唱のための18世紀オペラ名場面集 ヴェロニク・ジャンス (S) ベスティオン・ド・カンブラ指揮アンサンブル・レ・シュルプリー [アルファ (D) NYCX10577]</p> <p>♪オリジナルのタイトルは「女王たち」と簡潔なものだ。日本向けには「ソプラノ独唱のための18世紀オペラ名場面集」という副題が添えられたが、単なる名曲アンソロジーと誤解してはいけない。このアルバムは「曲集」とはまったく違う発想から作られている…… (小畑)</p> <p>♪原題「Reines」は女王または王妃だが […] 役の立場は多様である。本盤は何より資料的価値が高く […] 知られざるメロディの訴えかけがどれも新鮮なのだ。また、歌うジャンスがそれこそ「秘曲発掘の女王」であるだけに、大いなる集中力のもと…… (岸)</p>

●音楽史

	<p>ラモー／クラヴサン曲全集2 中野振一郎，築山茉以 (cemb) [299 MUSIC (D) NIKU9075～6 (2 枚組)]</p> <p>♪フォン・ナーゲル工房の2段鍵盤フレンチ、ブランシェ […] の明るく明快なサウンドがラモーにふさわしい。A = 408Hzのピッチと歴史的な調律、中野の円熟の演奏と相まって組曲二調から仄かな陰影に富んだ味わい深い演奏を聴かせている…… (那須田)</p> <p>♪原曲の多彩さを映した表情の変化と素早く振幅の大きな設計が、そのコントラストが演奏を貫通する […] 編曲の全てを、4つのコンセールに編成して収録している。ラモーのこの楽器のための創造のすべてを網羅しようという演奏者の徹底ぶり…… (美山)</p>
---	---

●現代曲／ポスト・クラシカル

	<p>マルトン・イレシュ／作品集 パトリツィア・コパチンスカヤ (vn) ニコラ・アルトシュテット (vc) 他 [アルファ (D) NYCX10568]</p> <p>♪1975年ハンガリー生まれのイレシュの作品集が国内規格で出るのは初めてだろう […] 作品はどれも触覚的な洗練を伴っており、そのキテレツさを十全に体験するには視覚的な要素も必要なのだが、少なくともここに収録された弦楽器のための作品においては…… (長木)</p> <p>♪《Vont-ter》で、まず度肝を抜かれた […] コパチンスカヤの独奏があまりにも夢幻自在、そしてあまりにも豊かなのだ。音楽を聴くというより、喜怒哀楽が目まぐるしく入れ替わる、圧倒的な一人芝居を観ている気分になってくる…… (沼野)</p>
	<p>伊藤弘之：弦楽四重奏曲第1番，同第2番 ディオティマ四重奏団 [フォンテック (D) FOCD9929]</p> <p>♪伊藤弘之の音楽というと、「フラジャイル」という言葉が口を突いて出る。四分音を多用することで生じる歪みの感覚がどこにも集束する地点を予感させないまま、揺らぐ音群を支配している。弦楽四重奏曲第1番を聴いて、「あっ、これこれ」と思った。だが…… (白石)</p> <p>♪冒頭の《プレリュード》(2014)を聴きはじめて時には、少し不満を覚えた […] 昨今の現代音楽界にありがちな「引用」の作法にも見えたからだ。ところが、その直後、ほとんどナゾと呼ぶしかない無窮動的な突進が始まり、こちらの先入観はあっさり覆される…… (沼野)</p>

[現在の新譜月評執筆陣] ※敬称略、五十音順

相場ひろ 飯田有抄 石原立教 石原勇太郎 小畑恒夫 岸純信 喜多尾道冬 城所孝吉 草野次郎 河野典子
 國土潤一 後藤洋 小宮正安 小室敬幸 白石美雪 鈴木淳史 長木誠司 長井進之介 那須田務 新野見卓也
 西村祐 沼野雄司 野平多美 広瀬大介 布施砂丘彦 船木篤也 増田良介 満津岡信育 松平敬 水谷彰良
 美山良夫 八木宏之 矢澤孝樹 安田和信 谷戸基岩 山崎浩太郎 山野雄大 山之内正 芳岡正樹 鷺野彰子

【レコード芸術 ONLINE】

2026年5月21日～6月21日更新の記事一覧

※有料会員限定コンテンツを含みます

【お知らせ】

- ・レコード芸術 ONLINE を、2ヶ月間、50%OFF でお読みいただけます♪ ※2026年7月6日（月）までのお申込み限定！
- ・【読者アンケート第11弾】「私だけのブラームス交響曲全集」大募集！ ※受付終了しました
- ・フリーマガジン第10号配布開始！
- ・連載「音符の向こう側」更新日変更のお知らせ

【ニュース】

- ・【2026年6月リリース予定】クラシック音楽新譜 発売情報
- ・エリザベート王妃国際音楽コンクール チェロ部門優勝のエットーレ・パガーノにパブロ・カザルス愛用の銘器が貸与！
- ・クラシック音楽 海外盤リリース情報（2026年6月）
- ・『Joe Hisaishi Conducts』と『ばけばけ』が Music Awards Japan 2026 で受賞！

【2026年5月新譜月評】

- ・音楽史、現代曲／ポスト・クラシカル、その他

【2026年6月新譜月評】

- ・オーケストラ曲、室内楽／器楽曲、鍵盤曲、オペラ／声楽曲

【最新盤レビュー】

- ・クラシック リイシュー & BOX 注目盤（5月） | 編集部
- ・イブラギモヴァとバーエワ：2つのヴァイオリン・ソナタ全集プロジェクトの魅力 | 本田裕暉
- ・久石譲の名曲をピアノで：フィアメッタ・コルヴィが鮮やかに描くその魅力 | 伊熊よし子
- ・福岡洸太郎が、自らの編曲も含むユニークなトランスクリプション・アルバムをリリース | 道下京子
- ・島田真千子が“聖典”に込めた創意：J.S. バッハ《無伴奏ソナタとパルティータ》の注目盤が登場！ | 寺西肇

【インタビュー】

- ・小山実稚恵が語る、円熟のラフマニノフ、そして尽きないシューベルト愛 | 山野雄大

【いま聴くべき演奏家 2026】

- ・クラシック音楽でいま聴くべき 管打楽器の器楽奏者 & 室内楽グループ | 西村祐
- ・先達の遺産も継承しつつ、新たな伝統が始まる：いま聴くべき“旬”の歌手たち | 岸純信
- ・女性指揮者・イギリス・古楽：3つのキーワードで読み解く「いま聴くべき旬の指揮者」 | 相場ひろ
- ・リスナーがいま注目するクラシック音楽ジャンルのアーティストランキング | 読者の皆様

【ブラームス4つの交響曲】

- ・【作品解説+必聴名盤 20】ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 Op.68 | 山野雄大
- ・【作品解説+必聴名盤 20】ブラームス：交響曲第2番 ニ長調 Op.73 | 相場ひろ
- ・【作品解説+必聴名盤 20】ブラームス：交響曲第3番 ヘ長調 Op.90 | 中村孝義
- ・【作品解説+必聴名盤 20】ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 Op.98 | 佐伯茂樹

【特別寄稿】

- ・「ヴィルトゥオーゾ」の本質に迫る、黒岩航紀の最新アルバム | 下田幸二
- ・ミハエル・ハイドンの音楽に寄せて | 布施砂丘彦

【特別企画】

- ・1960年代カウンターカルチャーの申し子？伝説の管楽器奏者、デイヴィッド・マンロウとは何者か | 編集部

【連載】

- ・プレラーディウム 第20回 再現部の人 | 船木篤也
- ・名演奏家再批評 File05 ピエール・ブレーズ礼讃③～④ | 八木宏之
- ・名演奏家再批評 File06 使用楽譜からみるメンゲルベルク①～③ | 内藤真帆

【レコ芸アーカイブ】

- ・『レコード芸術』新譜月評クロニクル 第3回 1975年（後篇） | 芳岡正樹
- ・名演奏のディスコロジー 第6回（1976年6月号）デュ・プレのベートーヴェン／チェロ・ソナタ集 | 柴田南雄
- ・名曲名盤 300/500 総集篇 Vol.3 ストラヴィンスキー：春の祭典、ラヴェル：ダフニスとクロエ | 編集部

【厳選！】編集部おすすめコンテンツ

[最新盤レビュー]

ベートーヴェン・イヤーへのカウントダウン イブラギモヴァとバーエフ 2つの ヴァイオリン・ソナタ全集プロジェクトの魅力

文：本田裕暉（音楽学・音楽評論）

投稿日：2026.06.04

無料コンテンツ



ここから読めます♪

[このディスクが登場します①]

『ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ第1集』

アリーナ・イブラギモヴァ (vn) セドリック・ティベルギアン (fp)

〈録音：2025年7月〉[BIS (D) NYCX10601] CD

[このディスクが登場します②]

『ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第5番《春》、同第9番《クロイツェル》、同第3番』

アリョーナ・バーエフ (vn) ヴァディム・ホロデンコ (p)

〈録音：2024年12月〉[アルファ (D) NYCX10572] CD

来年2027年はルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)の没後200年の節目の年であり、国内外の多くの音楽団体や音楽家たちがアニヴァーサリー・イヤーへ向けた多彩な企画をスタートしている。

そのようななか、新たに2つのヴァイオリン・ソナタ全集プロジェクトがスタートしたのでご紹介しよう。

[インタビュー]

小山実稚恵が語る 円熟のラフマニノフ そして尽きないシューベルト愛

ききて・文：山野雄大（ライター／音楽・舞踊）

投稿日：2026.06.15

無料コンテンツ



ここから読めます♪

[このディスクが登場します]

『ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番、他』

小山実稚恵 (p) ドミトリー・ユロフスキ指揮 東京フィルハーモニー交響楽団 & フェドセーエフ・フレンズ

〈録音：2025年10月 (L)〉[ソニーミュージック (D) SICCC19091] SACD ハイブリッド

40周年、という月日を確かに溶かしこみながら、しかし瑞々しく熱い。名匠・小山実稚恵の最新アルバムは、昨秋おこなわれたデビュー40周年記念公演のライブ録音盤だ。

この最新録音をめぐって、ピアニストご本人にお話を伺おう……と、晴れて日射しの暖かいある日、庭に鳥も啼くご自宅にお邪魔した。

[特別企画 いま聴くべき演奏家 2026]
女性指揮者・イギリス・古楽
3つのキーワードで読み解く
「いま聴くべき旬の指揮者」

文・ディスク選：相場ひろ（フランス文学）
投稿日：2026.05.28
有料会員限定コンテンツ



ここから読めます♪

[このディスクが登場します]

『ウォルトン：行進曲《宝玉と勺杖》，交響曲第1番，同第2番』

山田和樹指揮バーミンガム市 so

〈録音：2024年12月，25年11月（以上L）〉 [グラモフォン（D）UCCG45136] CD

20世紀後半に道が開かれ、その個性が輝く時代となった女性指揮者たち、若手・中堅指揮者たちが躍動する“ハブ”としてのイギリス、そして伝統を現代にアップデートする古楽シーンの挑戦。

世界各地で活躍する今絶対聴き逃がせない指揮者たちの多彩な音楽世界を、最新の活動と録音から紹介します。

[連載]

名演奏家再批評 File06
使用楽譜からみるメンゲルベルク①

文：内藤真帆（音楽学）
投稿日：2026.06.05
無料コンテンツ（2回目以降は有料会員限定コンテンツ）



ここから読めます♪
(1回目)

[このディスクが登場します]

『ベートーヴェン／交響曲全集，歌劇《フィデリオ》序曲』

ウィレム・メンゲルベルク指揮ロイヤル・コンサートヘボウ o, 他

〈録音：1940年4月～11月〉 [デッカ（タワーレコード）（M）PROC1893（5枚組）] CD

金曜連載「名演奏家再批評」第6弾。19世紀後半から20世紀前半の指揮者を関心対象とする音楽学者・内藤真帆さんが、ウィレム・メンゲルベルクについて、使用楽譜をもとに再批評していきます。全4回のうち、1回目は無料公開、2回目以降は有料公開です。

レコード芸術 ONLINE に広告を出してみませんか？

様々なプランをご用意しています。まずはお問合せください♪

お問合せ先：

(株)音楽之友社「レコード芸術 ONLINE」編集部

〒162-8716 東京都新宿区神楽坂 6-30 / E-mail: reco_online@ongakunotomo.co.jp

【レコード芸術 ONLINE 公式 SNS のご案内】

記事の更新情報などを発信しています♪

また、お読みになったご感想を、#レコード芸術 ONLINE を添えてぜひご投稿ください。

